



TITLE:

平價切下論を駁す

AUTHOR(S):

汐見, 三郎

---

CITATION:

汐見, 三郎. 平價切下論を駁す. 經濟論叢 1931, 33(5): 697-705

ISSUE DATE:

1931-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130103>

RIGHT:

# 京都市大學經濟學會 經濟論叢

第三十三卷 第五號

昭和六年十一月一日發行

（禁 轉 載）

## 論 叢

景氣徵候論について……………文學博士 高田 保馬

魚食論……………法學博士 財部 靜治

英國の重農主義者……………經濟學博士 堀 經 夫

## 時 論

赤字財政と對策……………法學博士 神 戶 正 雄

平價切下論を駁す……………經濟學博士 汐 見 三 郎

## 研 究

カッセル教授の貨幣數量説の實證の吟味……………經濟學士 柴 田 敬

獨逸大銀行と中小工業金融……………經濟學士 楠 見 一 正

金數量説に就いて……………經濟學士 松 岡 孝 兒

## 説 苑

ケインズの基本的均衡關係……………經濟學士 中 谷 實

世帯統計に就て……………經濟學士 岡 崎 文 規

貸借對照表の基礎的考察……………經濟學士 熊 本 吉 郎

老齡船の處分に就いて……………經濟學士 佐 波 宣 平

## 附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

# 平價切下論を駁す

汐 見 三 郎

## 第一、平價切下論の擧頭

金の輸出禁止を解き、圓を平價に復せしめると、直ちに景氣が立直るやうに考へられてゐた。然るに平價解禁後の今日に於て、内外の情勢が不利に傾き、一向好景氣が見舞はず、却つて不景氣が深刻になつて行くので、財界は非常に失望したのである。茲に生じたのは平價切下論及び其前提たる金輸出再禁止論である。對米爲替が三十八弗を示した時代に即時平價解禁を唱道した論者が、今度は平價切下論の先驅となつて日本全國の各階級によびかけてゐる。金の輸出禁止は必ず議會に於て法律に基き定めねばならぬと主張した同一の人は、大藏省令で直ちに金の輸出を禁止し、平價切下を斷行せよと新聞紙上で主張してゐられる。財界の變動は識者の頭にも著しき變化を齎したものと見える。

溺るゝ者は藁をもつかむと云ふ言葉があるが、これ恰も現在の財界を形容するに適當したる文句である。株價の最高の時代に株を擔保として資金の融通を受け、其の新たなる資金で更に大なる富を築いた所の企業家は、今や株價が暴落して動きがとれなくなつてゐる。勞賃は思ふやうに下

ちず、借金の利子は契約通りに支拂はねばならず、何とかして局面を打開したいのである。恰も英國は本年九月二十一日午前零時に金本位制を停止し、對外爲替は二割下落し、或は二割位は金貨の平價を切下げるのではないかと云ふ想像説も起つて來た。平價切下の結果は貿易外收入の重要な項目を占むる海運收入の増加として現はれ、更に綿製品の減價も亦英國の貿易收入に好影響を及ぼし、兩者相俟つて英國の國際貸借に好影響を與へ、我國の國際貸借に惡影響を加ふるものと直感せられたのである。茲に從來閑却せられてゐた平價切下論及び其目的を達する手段としての金輸出再禁止論が、溺れんとする者に對し天來の福音の如く響いたのである。平價を維持してゐる間に圓を賣却して、切下の後に圓を買戻し、以て巨額の利益を得んとし、又は少くとも圓賣により平價切下の災難を免れんとするのが、其一である。かゝる思惑をしないまでも、平價切下により株價の騰貴を計り、借金の減少と共に勞賃の實質的低下を計り、以て好景氣を招來せんとするのが、其の二である。實に平價切下論と金輸出再禁止論とは溺るゝ者に取つてつかむべき藁であつた。

纏つて思ふに、日本の財政は赤字を出してゐる。滿洲に兵を動かす事によつて少くとも一時的には財政の赤字を増さねばならぬ。日貨排斥が貿易に影響する事も少くない。國家の財政と民間の財界とが、比較的緊張してゐる際に、日本國民の中には自國の本位貨を賣つて、他國の貨幣につかんとしてゐるものがあると云はれてゐる。而も識者が、平價切下論を財界救済の特効藥の如く宣傳する事となると、或は日本の圓はマルクの徹をふみ、民衆をして遂に藁をつかましむ事と

なるのを恐るゝのである。これ平價切下論に對し反駁を加ふる所以である。

## 第二、平價切下論の誤謬

一九二五年に金解禁の先鞭をつけた英國が、六年間の苦心を無駄にして一九三一年九月に遂に金本位を停止したのである。この事は、我國の平價切下論者に非常な力強さを與へ、日本も亦其の跡を逐ふべしとの議論を生ずるに至つたのである。然し英國の財政及び財界は我國の財政及び財界と餘程其事情を異にしてゐる。例へば英國の國債總額は約七百億圓に上り、利子だけでも三十五億圓にして歳出總額の約五割を占めてゐる。而して十二億圓と云ふ赤字で脅されてゐたのであつた。其結果直接税の負擔も重きにすぎ、租税負擔の過大が資本の海外逃避に一層の力をそへた程である。加ふるに英國の財界の特長は世界金融の中心にして他國よりの短期資金が多く集まる事に存してゐる。従て財政並びに財界の信用が動搖すると、此等の短期資金は直ちに外國に復歸するのである。我國の財政は英國に比して確かに餘裕がある。直接税の負擔も英國に比較して輕いものである。加ふるに我國は世界の金融の中心を遠ざかり、他國より直ちに回收せられる短期資金が餘計には存してゐないのである。これ日本が英國の先鞭にならふを要しない理由である。然らば英國と事情を異にせる我國が金輸出の再禁止を行はんとするのには、何か重要な事情が無ければならぬ。平價切下論者及び金輸出再止禁論者の云ふ所を分つと、大體次の三つにする事が出来る。

物價騰貴に依つて生産物の價格を上ぼし、以て從來支拂つた高き生産費を支辨し企業に安息を與へ得べしとするのが、我が平價切下論者の唱ふる第一の理由である。然し我國民の消費する衣服及び建築材料等は原料を外國に仰ぎ、從て平價切下は一般物價の騰貴を促がし、やがては勞賃及び原料品の價格も高まり、結局の所は收支が相償はないやうになつてくるのである。いはゞ特殊の商品のみが騰貴して他に及ばざる僅かの間に、特殊商品の生産に従事せる人をして巨利を收めしめんとするのである。

第二に平價切下論者は貨幣價格を下落せしめる事によつて債務に苦しむ者に對し負擔を輕減せしめんとする目的を有してゐる。然し平價切下は單に事業資金に關係する債務を輕減するのみならず、更に凡ての債權、即ち預金、俸給、勞賃等苟くも貨幣額で示されたものを切下げる事となるのであるから、必ずしも社會全般の爲めに歡迎すべきものとは云へない。獨逸のマルクの暴落の際に左黨の有力者が「インフレーションは貨幣の價格を少くするものであるから、富豪の富を奪つて貧乏人に與へ、結局貧富の懸隔を緩和するものである」と云つたが、其結果は正に正反對であつた。マルクを一兆分の一に切下げ、貧富の懸隔を一層不平等ならしめた事は、我等の記憶に明かなる處である。平價切下論者の中に圓の五割切下を口にしてゐる人がある。一割の減俸でも不平があつたのに、暗打的に一整に五割の減俸を行ひ、五割の郵便貯金の切下を行ひ、五割の保險金の切下を行ひ、それで社會の秩序が保つて行けるであらうか。特に我國に於ては卸賣物價指數に比して小賣物價指數の下落の程度が緩慢であつて、俸給生活者及び勞働者の生活費が割高

となつてゐるから、尙更此の政策は之を避けねばならぬ。要するに平價切下論は社會の一部分の人に利益を與へ、以て富の分配組織を變更する虞がある。

第三に國際貸借に特に力を入れる平價切下論者は、英國の船舶の運賃が英國の磅が下落した爲めに割安となり、日本の船舶が之と競争し得ざるが爲めに我國も金輸出再禁止及び平價切下を行ふべしと論するのである。これ亦、比較的短時日の狀勢を見たる議論である、磅貨が下落せば英國の船舶の運賃も自ら昂騰すべく、運賃の割安は磅貨が下落して他の物價に影響を及ぼさざる一瞬時のみである。同様に圓の切下を行へば、一時的には我が海運界が優越の地位を占むるに難くないが、しばらくすれば又舊態に復するのである。

かくの如く金輸出再禁止に伴ふ平價切下は、或は一時的に國內物價の一部を釣上げる事によつて一部關係者に利益を與へ、又は國際物價平準の低下により一時的には我が國際貸借を有利に導くかも知れない。然し少しく時日を経過すれば物價に生産費に勞賃に地ならしが行はれ、切下前と同様となる傾向が考へられ、更に一部社會又は一部階級の犠牲に依つて他の社會又は他の階級が浮び上がる影響もある。かかる影響に就いては何ら觸れる處なく、唯單に平價切下を以て好景氣招來の萬能藥の如く説くのは、平價切下論の誤謬である。

### 第三、平價切下の實行難

かくの如く平價切下論は幾多の誤謬を含んでゐる。若し中間景氣を夢みて平價切下を行へば、

必然的にインフレーションを起し、第一の切下は第二の切下を呼起し、第二の切下は第三の切下を促し、結局歸する處を知らないのである。従てかかる空氣の中で金輸出再禁止を行へば爲替は下落するのみである。若し爲替を安定せしめんとせば、輸入超過を抑へ、國際貸借を改善せねばならぬ事となり、結局切下を行はず現狀を維持するのと同じ結果を示すものである。現在爲替が安定してゐるものを不安定にし、不安定の後に更に之を安定せしめんとするのが、平價切下を目的とする金輸出再禁止論の落着く處である、即ち第一段に現今の緊縮政策の緩和を圖らん爲めに手綱をゆるめて中間景氣を作り、第二段により、以上の行詰りに際し更に今日より以上の強き緊縮政策を將來にとると云ふ二段の手續きに依る事を豫想して、初めて平價切下が比較的無事に行はれるのである。然らずんば爲替の落潮と不換紙幣の増發とが、因となり果となり、物價に零をつける競争となり、マルクの二の舞を演ずるに至るからである。

圓の逃避の勢が甚だしく、日本銀行の正貨準備が激減し、兌換不能の危險が甚だしくなれば、或は必然的に金輸出禁止の政策に出ねばならぬかも知れない。然し日本銀行の正貨準備の減少にも自ら限度があり、従て原則として輸出禁止の政策に出なくてもすまず事が出来ると信じてゐる。それは次の三理由に基く。

第一に我國の最近の貿易狀態を見るに輸入超過額が激減し、國際貸借の改善が顯著である。而も圓の思惑さへなければ輸入超過額は貿易外受取勘定にてトン／＼となる事が出来る。

第二に外貨公債を買ふ爲めに圓が逃避するとせば、金利の關係により其勢が殺がれ、又外貨公



債の總額に限りある爲めに自動的に阻止せられる事となる。殊に年末金融の關係上、當分は金の輸出は制限せられる事になるであらう。金の輸出に付き大なる關係を有してゐるのは銀行である。然るに、大預金者の中には從來銀行に於ける定期預金を引出して圓の思惑を行ふ者があるようであるから、銀行自身は自衛上相當の準備を必要とし、自動的に思惑を抑制せねばならない。

第三に圓よりも弗が安全なるの理由を以て金の輸出を圖る者があるが、今日に於ては圓は必ずしも不安定でなく、又弗は必ずしも安全と云へないのである、この事は最近の米國の財界の切迫せる事情を見れば明かである。殊に日本の銀行を捨てて、米國の銀行に預金する事は米國財界の現狀に鑑み、かなり注意を必要とするのである。この前に平價切下論が唱へられし時に、圓を賣つて磅を買ひ、今日の磅の下落により結局損した人があつた、弗の思惑をする人に付いてもかゝる事が絶無なりとは、誰が言ひ得られやう。

#### 第四、圓を擁護せよ

以上の如く、平價切下と中間景氣の製造とを目的とせる金輸出再禁止論は本質的に誤謬を有し且つ實行に困難である。然しこれは財界人が常識を以て行動すると假定したる場合の事である。今日己に一部の人の間に行はるゝが如く、圓を神經的に嫌ひ、弗を投機的に貴ぶが如き傾向が増大すると、人は凡て外貨又は金貨又は物に圓を交換せんとする努力を始め、勢の赴く處は本位貨の廢止にまで行くのである。平價切下論を唱ふる人は曰く、「物が高くなればそれはそれ程好い事

はないではないか」と。而して大正時代に口を極めて歐洲大戰中及び後の高物價を攻撃した論壇が、昭和の今日には正反對の事を唱へる程に、時代は健忘症にかかつてゐる。若し、貨幣價值を下げて物價を高くし、それで財界の立て直しが出来るものならば、世の中に財界の安定策ほど易々たるものはあるまい。惡貨を鑄造せよ、不換紙幣を増發せよ、これが即ち財界の安定策となる筈であるが、之は何人も承認の出来ない所である。若し物價の上る事が無條件に社會の爲めになるものならば、何故に米騒動が恰も物價騰貴の眞最中の大正七年に起つたのであらうか、物價騰貴といふものは常に必ずしも社會全體を幸福にするものではない。永遠の財界を見ず瞬間的好景氣を夢み、更に社會全般を見ず一部階級の利益を以て社會全體の繁榮と見るが如きは、余の知らない所である。

如何に鞏固なる銀行であつても預金者が一整に取付けに來れば直ちに亡びるものである。如何に鞏固なる貨幣制度を樹立しても國民が率先して自國の本位貨幣を去り他國の貨幣又は品物に住の地を求めんとせば、其の國民經濟は破壊せられるのである。故に他國の本位貨幣を下落せしめる政策は交戰國間に於て往々行はれる所である。かの大正十二年前後に行はれたる佛國と獨逸との争は、一面より觀察すれば獨逸貨幣のマルクと佛國貨幣のフランとの争であつた。兩國共に自國の本位貨の擁護の爲めに大いに戦つたのである。被占領地地方の獨逸人が中立國設立を斷念し祖國擁護に傾いたのは、決してフラン安定マルク下落の時でなく、マルク安定フラン下落の時であつた。今や我國は財政上經濟上の重大時機に直面してゐる、國民は我等の本位貨たる圓を擁護

すべく決して圓を見棄てる様な事があつてはならない。然るに恰も此時に投機熱に浮かされて正貨を海外に流出する事に努むる人があり、又之を煽動してゐる人があると云ふ説があるが、余は之を信じたくないのである。勿論、金の平價解禁に失望してゐる矢先に、特効藥として平價切下論が唱へられて來たのであるから、圓賣に出るのは營利人としては當然の心理状態であつて、余も感情的には其の氣持を善く理解する事が出来る。然し圓賣それ自體が圓の切下を加速度的に一層促進せしむる事を考へると、此の感情を去つて理智的に行動せねばならないのである。圓を擁護せよ、圓を擁護する事が平價切下を行ふ必要を絶無にし又は少くとも其程度を最少限に止まらしむるものである。かくして圓を擁護する事が即ち財界及び社會を安定せしむる所以となる。

最後に遺憾に耐えないのは、平價切下論金輸出再禁止論の起るに至つた一半の責任が現内閣の最近の行動にかかつてゐる事である。行政整理、財政整理、税制整理の三大政策を掲げながら、内外の反對あれば直ちに撤回し、實行といふ最後の一段に於ては徒らにプログラム倒れに陥らんとする傾向を見受けるのである。國家の内外の情勢が緊張を告げてゐる際に拘らず、政策の遂行に難色のある爲めに、現内閣は或は金輸出再禁止を行ふ心算にあらざるか又は平價切下を行ふ下心にあらざるかの危惧の念を一般民心に與へるのである、而して此の缺陷に食ひ入り金輸出再禁止論及び平價切下論が近來俄かに論壇を支配せんとしてゐるのである。國家の難局に處して、自信ある政策を樹立し且つ其の政策を必ず實行する事を爲政者に望まざるを得ない。かくして圓を擁護し同時に社會を安定せしむる事が出来るのである。